

“市民不在”の市政と対決 吉岡議員が代表質問

代表質問 「市民の声 反映を」
5月28日 吉岡ひろ子市議 35分



秋元市政3期目がスタートして1年、第2回定例会(5月17日から6月4日)に先立つ北海道新聞の世論調査で、市長の不支持率は、就任後、初めて支持率を上回りました。代表質問では、吉岡ひろ子市議が、敬老パスや北海道新幹線札幌延伸、高齢者福祉や子育て支援などで、市民不在が際立つ市政を追及しました。

敬老パス、存続と拡充の願いに反する

現在の敬老優待乗車証(敬老パス)を、目的や内容が違う「敬老健康パス」(変更案)に移行させる市の提案は、現行制度の存続・拡充を願う市民の意思に逆行します。

代表質問では、すべての主要会派が取

り上げましたが、他会派が持続可能な制度として検討をどう進めるのかと質問するなか、吉岡市議は、「市民の意見を重視し、反映させる考えがあるのか」と質問しました。

今年度中に実施策を取りまとめると表明している市長は、「事業の見直しを含めた制度の課題を整理し、あわせて経過措置を検討している」と答弁。現行制度の存続・充実に願って届けられた26000人分の署名や市議会に届けられた陳情に、まったく向き合おうとしない姿勢は、市民不在で推し進め断念に追い込まれた冬季オリンピック・パラリンピック招致と同様に不信感を増大させるばかりです。

高齢化、単身化の課題浮き彫りに

単身高齢者の増加に対応するうえでの課題が何かを質問。地域包括支援センターの業務について、「相談件数だけでなく対応困難な事案も増えてきており、業務負担が過大」と答弁した市は、「官民の支援団体や地域組織による重層的な見守り・支援体制の構築」にむけた、関係機関による分野横断的なネットワークづくりに言及しました。

児童相談所職員の専門性確保

「組織としての経験を蓄積させる」

今年1月に懇談した教職員から、「サポーターやカウンセラーと学校で相談できる余裕、人間関係、時間がない」との

意見が市議団に寄せられていました。

札幌市は24年度から、スクールカウンセラーの時数を増加、スクールソーシャルワーカーも全校巡回できるように増員しています。吉岡議員は、さらに「常駐化へ向かうべき」と求めたほか、児童相談所職員の専門性強化に関わって、「児童福祉司・児童心理司とスーパーバイザーの養成のために必要な人事異動サイクルの構築の見直し」を明らかにするよう質問。市は、「職務経験を考慮した効果的な人事異動により組織としての経験を蓄積させる」という専門性を重視した人事配置の方針を明らかにしました。

新幹線札幌延伸 前倒しの見直しやまちづくりの影響明らかに

北海道新幹線の2030年度札幌開業が極めて困難とされるなか、経済波及効果額のマイナス額や、市戦略ビジョンなどまちづくりへの影響、5年前倒しされた環境や安全に配慮した工事を求めました。



質問後に開いた報告会に傍聴者が多数参加し、「市長の答弁は焦点をはぐらかしており、具体的なものではなかった」と感想を述べ、交流しました。



JR 精神障がい者割引導入で障がい者団体控室訪問

4月30日

定例会に先立つ4月11日、JRグループが精神障害者割引制度を導入すると記者発表しました。JRの発表は、市議会が「精神障がい者に対する公共交通機関の運賃割引制度の適用を求める意見書」

を採択してまもなくでした。議会に意見書採択を働きかけてきた、「札幌市の障害者交通費助成の拡充を考える会」は、4月30日に各会派をまわり報告。党市議団は、昨年、継続審査となった意見書を、委員会として採択したいと各会派への協力を働き掛けました。